

おさざなみ

本庄小学校 学校だより 第5号

令和4年7月20日

文責 武田



1学期の終業式を行いました

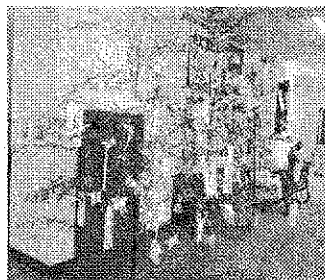
15日(金)、19日(火)には個別懇談会にお越しいただきありがとうございました。短時間ではありましたが、お子たちの1学期の成績や成長の様子、課題について、お伝えさせていただいたり、お家での様子を聞かせていただいたりできました。伺ったお話は、今後の指導に役立ててまいります。

さて、1学期は69日間。学校行事や校外学習は概ね、コロナ前と変わらず実施できました。多くのボランティアやゲストティーチャーの皆さんを迎えた学習も再開することができました。感染対策をしっかりと行いながら、少人数で機能的に動ける本校の良さを生かし、実施できたものだと考えます。体験が子どもの育ちを促し、人との出会いが頭と心に刺激を与えることを実感した毎日でした。

明日から、子どもたちが楽しみにしている夏休みが始まります。この時期にしかできないことや、長い休みだから取り組めることに挑戦し、できることを増やし、自信を深めて欲しいと思います。また、交通事故や熱中症、コロナなどから身を守り、安全に気を付けて過ごしてほしいと思います。2学期の始業式は、9月1日(木)です。心と体をリフレッシュさせて、またこの日に元気よく登校してください。

学校運営協議会の鈴木会長に準備していただいた笹に、子どもたちの願いを書いた短冊や笹飾りをつけ、七夕飾りを昇降口の入ったところに備えました。スポーツや習い事の上達を願うものや、欲しいものが買ってもらえるようにという

もの、世界の平和やコロナの終息を願うものなど、子どもらしさや今の世相を反映した短冊が飾られました。



4年生が国語の学習で考えた「本庄小学校の歌」があります。私がみつけた“きらりワード”は…「これまでも、これからもみんなに愛され継がれるように」「本庄魂忘れずに」「卒業写真におかあさん」「金丸橋はいつも通学路」などです。

子どもたちの目線から見た本校と地域の良さや特徴、自慢が見てとれるもので、私たち大人が気付かない価値あるものや、世代を超えて子どもたちと共有できる値打ちあるものを確認することができました。

9月の行事予定

※コロナウイルスの感染状況等により変更する場合があります

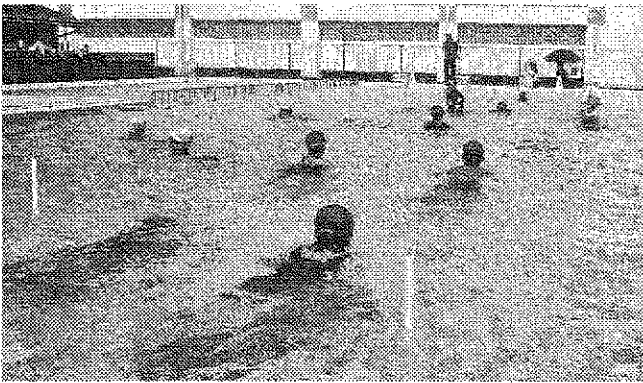
9/1日(木) 始業式、給食開始、13時下校 *下校時刻表では11:20とお知らせしましたが、給食後の下校となるので、13:00に訂正してください。	20日(火) 1・2年校外学習(予備日) 6年平和学習(県平和祈念館より)
2日(金) 委員会活動	22日(木) 教職員研修のため、全校13時下校 (水曜日課 4校時まで)
5日(月) 6年租税教室	26日(月) 3年校外学習
6日(火) 4・5年陶芸教室②	29日(木) 高島市小学校陸上記録会(予備日30日) *今年の陸上記録会は6年生のみ参加で、保護者の皆さんの参観は「なし」で実施します。
12日(月) 学年費引き落とし日	30日(金) PTA地域委員会
14日(水) ②授業参観 ③親子学ぶ会	
16日(金) 1・2年校外学習 クラブ活動	

マイスクール事業について

① 校内遠泳大会

暑さを少しでも避けるため、7月1日(金)の1・2時間目に校内遠泳大会を実施しました。保護者の皆さんも多数応援に駆けつけてくださいました。子どもたちの泳力向上のためにと、日々の練習を主導していただいた安原則子さんの見守りを受け、子どもたちは自分の決めた距離の完泳を目指してスタートしました。速さを競うのではなく、プールサイドから友達がかけてくれる「エーンヤ、コ〜ラ」の掛け声に合わせて、みんなでスピードを合わせて一緒にゴールを目指しました。25mから1000mまで、泳いだ距離は違っても、泳ぎ切った後に見せた笑顔やピースサインに子どもたちのやり切った感があふれていました。

本庄の伝統を受け継ぎ、遠泳で自信をつけた子どもたちの誕生の瞬間でもありました。



② 4・5年生 陶芸教室

7月11日(月)に4・5年生が合同で陶芸教室を実施しました。「少人数だからできる+少人数だから必要」だと感じた学習でした。2学年併せて21名。ゲストティーチャーは、(自称)図エコーディネーターの石黒紀代子先生。土粘土をこねて作る作品は、4年生は『〇〇なシーサー』、5年生は『ふしぎな海の生き物』が課題。真横からだけでなく、上から・下から見たらどんなふうに見える?」「普通の魚じゃなく、もっとイメージを膨らませて」「部品は、大・中・小で50個」など、発想を変えたり、豊かな表情の作品に変身させたりするワードが次々に発せられる。子どもたちは夢中に作品と向き合い、個性あふれるシーサーや海の生き物が完成しました。この後、世代交流センターで素焼きをしていただき、2学期に釉薬を塗り、本焼きをして作品が完成します。

自分の思いを話せる子どもを育てていこう

スクールソーシャルワーカーの鈴木秀一先生が来校されたときに、本校の子どもたちの強みや弱みについて懇談をしました。その中で話題になったことを紹介します。

子どもたちは、人との関わり中で育ちます。子どもたちは、その中で、自分のことをどれだけ話すことができているのでしょうか。

本校は小規模校で、少人数で過ごしています。相手の気持ちや思いをくみ取り、押し量って過ごしている、言い換えれば、本人の気持ちを先に代弁することが子ども同士や教職員との関わりの中でもあるように思います。「どうしたの?」と問うより先に、

「〇〇なの?」とYes/Noで返せる問いかけをしてしまうことが多いように思います。

このことは、一見、相手を思いやる問いかけのようにも見えますが、結果として、子どもが自分のことを話さずに済んでしまいます。そして、このことが繰り返されると、自分の思いを話す力がつかなくなるのです。低学年でいきなり手が出てしまう子は、自分の気持ちを言葉で伝えることが苦手な場合があります。また、小学校を卒業すれば、中学校で新しい仲間と出会います。そこで自分の思いが話すことができなければ、新たな人間関係を作ることに苦勞するでしょう。

自分の思いを話すことができれば、相手の思いもしっかりと受け止め、誰とでも良い人間関係を作ることができ、たくさんの人との関わりが広がります。困った時には助け合える仲間もできていきます。

私たち教職員も、結論を急がず、まずは子どもの話をしっかりと聞き取ることを心がけていこうと話しました。学習中も、自分の考えを自分の言葉で表現し、相手の考えを受け止めて、さらに自分の考えを見つめ直すことを大事にして指導を行っています。ご家庭でも、お子さまが自分の言葉で話せるようゆったり構えて、「どうしたの?」と、まずは思いをしっかりと聞いてあげてください。